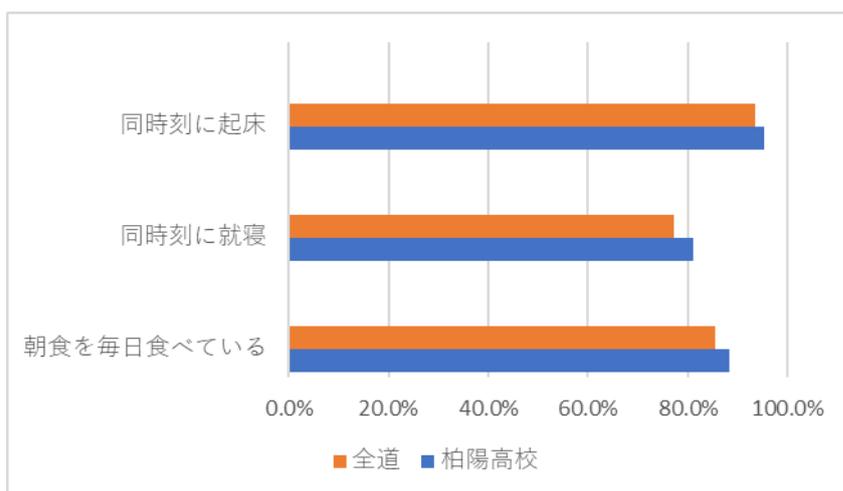


令和4年度北海道高等学校学習状況等調査の結果について（令和5年2月～実施）

保護者等の皆様へ
この結果は、令和4年度末に全道の1年生（現2年生）を対象に行われた調査結果について、全道平均と本校生徒を比較したものです。
この資料をご覧いただき、ご家庭での学習習慣等について見直し、お子様と話し合う機会を持っていただければと思います。
※値は「そう思う」「どちらかといえばそうだ」と回答した割合の和です。また、（ ）内は前年度の数値です。
ただし、「-」は令和4年度からの新たな項目です。

1. 基本的な生活習慣等について

	朝食を毎日食べている	同時刻に就寝	同時刻に起床
柏陽高校	88.4% -	81.0% -	95.2% -
全道	85.4% -	77.3% -	93.4% -



○普段のテレビゲームの時間（スマートフォンのゲームを含む）

	2時間以上	1時間以上	30分以上、1時間より少ない	30分未満、もしくは全くしない
当校	36.5% -	15.9% -	15.3% -	32.2% -
全道	47.6% -	15.9% -	10.9% -	25.7% -

○普段のスマートフォンでSNSや動画視聴をする時間

	2時間以上	1時間以上	30分以上、1時間より少ない	30分未満、もしくは全くしない
当校	73.0% -	18.5% -	7.4% -	1.1% -
全道	74.2% -	17.3% -	5.9% -	2.3% -

基本的な生活習慣については、本校生徒と全道平均に大きな差は認められません。通学にあたり、朝食をしっかりとって規則正しい就寝時間を確保し、規則正しい生活を送ることにについては今後も継続してご家庭での協力をお願いいたします。

平日のテレビゲームやSNS・動画視聴などの習慣についても、全道平均との大きな差は認められません。一方で、帰宅後の時間の使い方について、スマホの利用が2時間以上となっている生徒が70%以上であることは注目に値します。お子様自身も利用時間の多さについて自己管理の必要があると感じているものと思います。ご家庭でもお子様の将来の進路や学習の計画等について考える時間を設けたり、スマホ利用の家庭でのルールを検討するなど、ご協力をお願いいたします。

2. 挑戦心・達成感・規範意識・自己有用感等について

(1) 挑戦心・達成感・自己有用感

	自分にはよいところがある	将来の夢や目標を持っている	物事を最後までやり遂げてうれしかったことがある	難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している	人の役に立つ人間になりたいと思う
柏陽高校	87.3% -	71.4% -	97.9% -	70.9% -	95.8% -
全道	81.5% -	68.5% -	93.8% -	66.1% -	94.7% -

(2) 規範意識

	人が困っているときは、進んで助けている。	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う	学校の規則を守っている
柏陽高校	87.8% -	94.2% -	99.5% -
全道	86.8% -	96.2% -	96.1% -

(3) 学校生活充足感

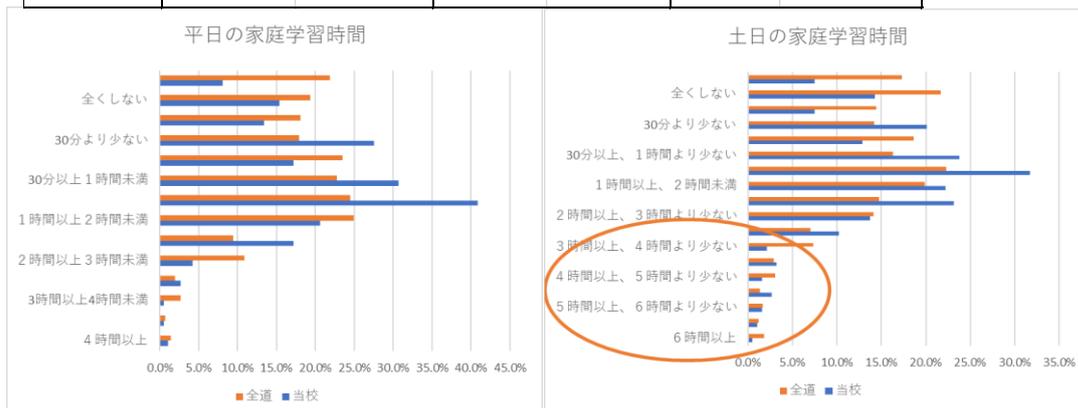
	先生はあなたの良いところを認めてくれている	先生は、授業等で間違えたり理解していないところについてわかるまで教えてくれている	学校に行くのは楽しい
柏陽高校	86.8% -	78.8% -	86.8% -
全道	83.8% -	86.1% -	79.9% -

自己有用感、規範意識、学校生活充足感については、全道と比較すると、概ねどの項目についても上回っていることがわかります。(3)の授業理解に関する項目について、授業中わからないことをそのままにしている生徒も一定数いることを踏まえ、授業の改善の課題の一つとして、今後教職員で共有し、改善に努めます。

3. 学習習慣等について

(1) 入学前との意欲の変化

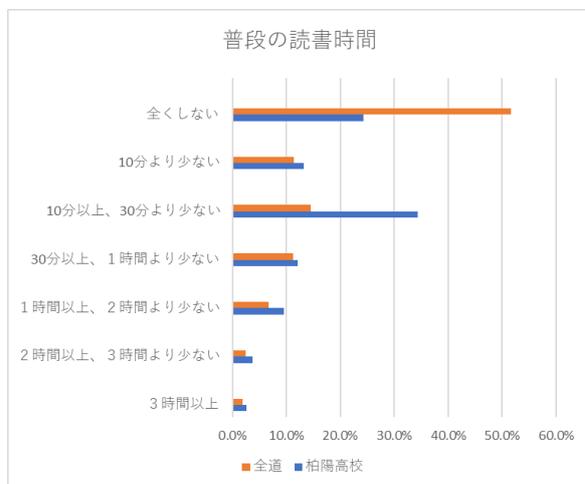
	学習意欲が高まった	科学や自然に対する興味・関心が高まった	卒業後の進路についてより真剣に考えるようになった
柏陽高校	59.3% (75.8%)	50.8% (46.8%)	89.4% (93.0%)
全道	65.4% (70.7%)	53.0% (54.4%)	89.6% (92.7%)



学習意欲は、昨年度に比べると 16.5 ポイント低下しました。また、普段の家庭学習時間についても、昨年度と比較すると 1 時間未満の生徒が増加し、進学を目指す生徒の多い本校としては、少々物足りなさを感じる結果となりました。上位層の絶対的学習量の少なさも気になります。入学後、受験勉強から解放されて安心したとも考えられますが、卒業後の進路実現のため、計画的に家庭学習をする意識付けを図ることが課題です。個人面談等でそれぞれの生徒の進路希望先に合わせたアドバイスをするなど、学習習慣を身につけさせるための取組を検討してまいります。

(2) 1日当たりの普段の読書時間

	3時間以上	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	10分以上、30分より少ない	10分より少ない	全くしない
柏陽高校	2.6%	3.7%	9.5%	12.2%	34.4%	13.2%	24.3%
全道	2.0%	2.5%	6.8%	11.3%	14.5%	11.4%	51.6%



本校では、朝の S H R 前に 10 分間の朝読書の時間を設けています。全道平均と比較すると、本校生徒は毎日コンスタントに読書の時間を確保できていることがわかります。読書により「心を豊かにすること」に加え、「必要な情報を調べる技術」「情報を活用する技術」・考えをまとめ表現できる技術」等を身につけることが期待できます。

読書の持つ意義について引き続き生徒に指導してまいります。

(3) 各教科の勉強は好きだ

	国語の勉強が好きだ		数学の勉強が好きだ		英語の勉強が好きだ		地歴公民の勉強が好きだ		理科の勉強が好きだ	
柏陽高校	41.3%	(52.7%)	45.5%	(42.5%)	38.1%	(41.4%)	77.8%	(55.7%)	55.6%	(56.8%)
全道	58.7%	(55.4%)	52.2%	(53.4%)	50.4%	(51.0%)	61.9%	(60.5%)	55.6%	(58.3%)

(4) 各教科の授業内容はよく分かる

	国語の授業内容がわかる		数学の授業内容がわかる		英語の授業内容がわかる		地歴公民の授業内容がわかる		理科の授業内容がわかる	
柏陽高校	55.0%	(81.7%)	65.6%	(60.7%)	44.4%	(57.0%)	87.3%	(64.5%)	65.1%	(61.8%)
全道	75.3%	(81.2%)	63.3%	(69.8%)	61.0%	(66.3%)	72.6%	(73.4%)	60.2%	(66.6%)

(3) によると、地歴公民と理科の勉強を肯定的に捉えている生徒が全道平均を上回っている一方で、国語・数学・英語については勉強を肯定的に捉えている生徒が 50% を下回っている状況です。

(4) では、英語を除く教科について授業内容が理解できていると答えている生徒が 50% 以上を超えており、生徒の意欲を高める授業作りが概ねできているとわかります。一方で、国語と英語は全道平均を下回っており、今後は一層、「わかる授業」作りに向けた工夫・改善が必要といえます。今後、各教科における生徒への授業アンケートを実施し、その結果をふまえてより良い授業作りにもむけて全教職員で取り組んでまいります。

(5) 総合的な探究の時間は好きだ

	当てはまる		どちらかといえば、 当てはまる		どちらかといえば、 当てはまらない		当てはまらない	
柏陽高校	20.6%	-	33.3%	-	24.9%	-	21.2%	-
全道	21.4%	-	35.6%	-	23.5%	-	19.5%	-

総合的な探究の時間について肯定的に捉えている生徒は 53.9% であり、全道平均 (57%) と概ね同程度の回答となっています。

本校の総合的な探究の時間は、3年間で「国際的な視点から地域のことを考えて、将来的にはオホーツク圏域で活躍できる人材を育成する」ことを目指しています。このアンケートが実施された 1 年次に対しては、探究の手法理解と SDGs の概念理解に重点をおいています。

本校では 2 年次以降で、1 年次の学びをふまえた探究活動が本格化します。探究の柱となるスタートでの学びを今後も大切にまいります。

3. 進路について

	四年制大学		短期大学		専門学校		海外留学		上記以外の学校	
柏陽高校	57.7%	-	1.6%	-	11.1%	-	0.0%	-	1.6%	-
全道	45.5%	-	2.3%	-	19.5%	-	0.7%	-	1.1%	-

	民間企業		公務員採用		未定	
柏陽高校	0.0%	-	12.2%	-	15.9%	-
全道	8.7%	-	4.1%	-	18.2%	-

本校に入学する生徒は、60%近くの生徒が四年制大学への進学を希望し、就職希望者は公務員採用を目指していることがわかります。本校の卒業生の実績と概ね同じ傾向です。

入学時に持っていた生徒の希望の実現に向け、今後も個人面談等で希望や不安に向き合い、丁寧な指導を継続してまいります。

4. 地域や社会に関わる活動の状況等について

	地域の行事に参加している		地域や社会をよくするために何をすべきか考える	
柏陽高校	36.7%	-	42.3%	-
全道	33.2%	-	43.5%	-

今後の学校教育では、地域全体で子どもたちの学びや成長を支え、持続可能な社会の作り手の育成を図っていくことが求められています。

本校の卒業生は地元北見市、オホーツク圏域で活躍している方も多いため、地域の教育資源や人材と連携した教育活動を一層充実させるなど、生徒が本校での学びにより地元の良さを実感できるよう、本校と地域との連携のあり方について検討してまいります。